

# 大好きな人に 手紙を出そう

札幌市立厚別北小学校 吉田 信興

私たちは、活動の展開にあたって“インパクトのある対象との出会い”や“子どもが必要感を持てる活動”など、様々に思いを巡らします。それは、「情報の伝達」にかかわる「郵便の学習」でも同じことがいえます。例えば、「手紙を出す活動」では、「転校していった〇〇君に出そう」だとか、「お世話になった地域の人にお礼の手紙を書こう」など、“きっかけ”や“必要感”を求めます。

ちょっと角度を変えて、それらを共通の対象（ひと）から、子ども一人一人の内面に求める構成ではいかがでしょうか。



## 相手を決める

友達でもいとこでも  
誰でもOK!

## 相手が喜ぶ内容を考える

- いとは花が好きだから、花の模様の便箋を使おう。
- じいちゃん、たばこが好きだからたばこをおくりたい。

## 送る方法を考えたり調べたりして送る

- 送りたいものにに応じて、方法を考える。ゆうぱっくもOK
- 郵便に関する情報を家から集める。
- 実際に送る。

## 相手を決めるよさ

- 相手に喜んでもらうためという意識が強まって、自分の考えに加えて、相手の趣味や趣向についても考えた上で、手紙の内容を決定するという相手を意識した工夫がみられる。
- 単に手紙の出し方を覚えるのではなく手紙のよさを実感することができる。